



～図書室にはこんな本があります～

No. 44

★ 今回は愛国百人一首についての昭和館図書室の資料を紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

「愛国百人一首」をキーワードとして全ての資料から検索します。

例) → → (40件該当)

☆愛国百人一首とはどういうものか？

『あの戦争 太平洋戦争全記録 上』(210.75 Sa65 1 開架一般)

『図説 昭和の歴史 8』(210.7 Sh98 8 開架大型)

→愛国百人一首の写真有り。

『朝日新聞縮刷版 昭和17年 11月～12月』(071 A82 1942-6)

『昭和史 第11巻』(210.7 Sh97 11)

『戦中用語集』(210.75 Mi25) などがあります。

☆愛国百人一首の歌が全部あるもの

『婦人画報 第467号=第37巻第1号

(昭和18年1月)』(051 F64 467 閉架雑誌)

『週刊婦人朝日 第19巻16号』(051 Sh99 1942-12 閉架雑誌)

また検索一覧には出てきませんが、愛国百人一首が約半数と愛国いろはカルタの全部が掲載されているものに

『昭和ニュース事典 VIII』(R210.7 Sh97 8) があります。

他にも愛国百人一首に関連した当時の出版物も何点か所蔵していますので検索してみてください。

※おまけ…愛国いろはカルタについて

『平和を語る時』(210.75 To79 3)の付録資料にカルタの復刻版があります。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

やっと暖かくなりましたが、今年の春は寒かったですね。筆者の「もう一冊・・・生活」は、相変わらず神田の古本屋街の散歩です。最近は見ただけで興奮するような本と巡り会えないのが残念ですが、それでもポツポツ欲しい本を見つけています。最近も「粘葉考」という本を手に入れました。これは有名な本で、日本の古いスタイルの製本様式の一つで、用紙の背中を糊で貼りつけた様式の製本についての研究書です。これを粘葉（でっちょう）と言ったのです。以前から時折見かけていたのですが、いつもずいぶん高い値段が付いていたので見送っていたのですが、普通の半値くらいの本があったので、早速手に入れました。以前は、本は値上がりするばかりだったのですが、最近はかなり安くなるケースも少なくなく、案外な掘り出し物もあります。

もっとも、筆者自身は、古本の値段は自分の評価で決めているので、本が有っても、自分の評価よりもかなり高い場合は、買いません。逆に、不当に安い値段が付いている場合には、これまたチョット不愉快です。思わず「失礼な値段だなあ。この本は、こんなに安くないよ」と思って、既に持っていたとしても買ってしまう事があります。この心理状態は上手く言えませんが、本は、ちゃんと内容なりに尊重する人が持つべき物だ。と知っているからです。つまり、本は正当な評価をするべきで、値打ちなりの価格で売られるべきであり、値打ちなりの価格を払って買うべきものだと思うからです。もっとも、残念なことには、「このクズ本が、こんなに高いわけないだろう」と思う方が圧倒的に多いのも事実ですが。

古本屋さんの値段は、その本屋さんの思想そのものですから、値付けを見て、その本屋さんの考えを知る事が出来ます。これは、その本屋さんの仕入れの際の値付けにも関わります。筆者は、知らない本屋さんがあるときは、たまに本を売りに行ってみます。自分で見積もった値段とあまり差が無い時は、「ああ、この本屋さんは、私と同じ考えだ」とおもうし、大きく差が出る時には、「この本屋さんはチョット違うなあ」と思うわけです。

自分で言うのも変ですが、古本マニアって、妙な人種ですね。 (午睡)



—図書室から—

あつという間に新緑のまぶしい季節になりました。真新しい服装に身を包んだ人々もどこか緊張顔です。ちょっと寒暖の差がありますが、がんばっていきましょう！

*閲覧室、コピー機に囲いをつけました。

コピー機に防音のために囲いをつけました。透明な囲いのため、ぶつからないようご注意ください。なお、複写についての注意事項も掲示してありますので、遵守してください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 44

2003年4月22日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1